

31-1115

薬局・ドラッグストアの選択基準

○菅原 仁¹, 河野 弘之¹, 吉原 真理¹, 宮川 貴子¹, 松村 真智子¹, 原田 陽子¹, 安藤 淳一¹, 田中 明美¹, 矢萩 美保¹, 大沼 智子¹, 服部 輝也¹, 竹原 恵¹, 佐川 信昭¹, 後藤 潤子¹, 佐藤 孝英¹ (¹(株)ツルハ)

【目的】近年の薬局数の増加は著しく、約5万軒にまで達した。このため、数多くある薬局から、国民が自分にあった薬局を選ぶ必要が出てきた。国民がどのような薬局を好み選択するか、実態を明らかにするためアンケート調査を実施した。

【方法】調査対象は、関東1県および東北5県に展開する、当社の調剤薬局に来院した患者とした。アンケート用紙を配布し、自由意思により回答を依頼した。アンケート内容は、OTC薬等を購入する薬店・ドラッグストアと、処方箋受付の保険薬局の2つの項目に分けた。

【結果及び考察】回答者は10代から80代の年齢層からなり、男女比は女性が60%と多かった。薬局・薬店を選ぶ理由としては、店舗の場所・立地を重視する人が40%を占め、従業員の応対に関しては20%だった。従業員の応対で重視される事柄としては、薬局・薬店ともに「気軽に質問・相談が出来る」、「応対が親切・丁寧である」を合わせて70%以上だった。自分・家族の健康を、気軽に相談できる薬店・ドラッグストアを持っている人は30%で、今後相談できる薬店・ドラッグストアが欲しい人は80%だった。薬店・ドラッグストアで取り扱いを増やして欲しい商品は、健康食品・サプリメントが40%と一番多く、次いで雑貨、食品、アロマ・リラクゼーションだった。当店(ツルハ)をご家族にお勧めできますか?の問いには、「是非したい」が25%で、「したい」、「しても良い」を含めると95%以上の支持率だった。コンビニ販売・夜間販売の各種調査結果から、利便性の高い薬局・薬店が好まれると考えていたが、やはり相談できる薬局が本当に求められていると推測できる。今後は、駅前の量販店型の薬局・薬店よりも、自宅に近い地域密着型の薬局・薬店が支持されていくと考える。